

# 兵庫あおの病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【兵庫あおの病院の基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構兵庫あおの病院

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：兵庫県小野市市場町926番地の453

許可病床数：250床

（病床の種別）

一般病床 250床

（病床機能別）

回復期病床 50床

慢性期病床 200床

稼働病床数：

（病床の種別）

一般病床 250床

（病床機能別）

回復期病床 50床

慢性期病床 200床

診療科目：内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、  
形成外科、小児外科、皮膚科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、  
放射線科、歯科、緩和ケア科、

職員数：278.7名

- ・ 医師 14.7名
- ・ 看護職員 151.5名
- ・ 専門職 90.8名
- ・ 事務職員 21.9名

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」によると、兵庫県の総人口は、今後10年間で26.3万人減少し、2015（平成27）年の553.2万人から2025（平成37）年には526.9万人に、その後も減少が続き、2040（平成52）年には467.4万人程度になる見込みである。

生産年齢人口は、今後10年間で23.9万人減少し、2015年の332.2万人から2025年には308.3万人に、その後も減少が続き、2035～2040年頃にかけて大きく減少、2040年には250.1万人程度になる見込みである。

高齢者人口全体では、今後10年間で9.9万人増加し、2015年の150.1万人から2025年には160.1万人に、その後も増加が続き、2035～2040年頃にかけて大きく増加、2040年には170.0万人に達する見込みである。

うち、前期高齢者人口（65～74歳）は、今後10年間で15.8万人減少、2015年の79.1万人から2025年には63.3万人に、さらに2030年に61.2万人まで減少したのち増加に転じ、団塊ジュニア世代が65歳を迎える2035～2040年頃にかけて急増、2040年には73.2万人程度となる見込みである。

後期高齢者人口（75歳以上）は、今後10年間で25.6万人増加し、2015年の71.0万人から2025年には96.6万人に、さらに2030年に100.0万人まで増加したのち緩やかな減少に転じ、2040年には96.8万人程度となる見込みである。その後、団塊ジュニア世代が75歳を迎える2045～2050年頃にかけて再び増加し、2030年のピーク値を上回る可能性がある。

### ② 構想区域の課題

#### 医療への影響

##### ア 人口減少・高齢化が医療に及ぼす影響

人口が減少する世代の医療需要の減、人口が増加する世代の医療需要・認知症患者・要介護認定者の増、一方で生産年齢人口の減少に伴う経済活動・労働力の低下、医療・介護の担い手の不足などがあげられる。

全県では、団塊の世代が全て後期高齢者となる2025年に向けて、総人口は26.3万人減少するものの、医療需要が高い後期高齢者が25.6万人増加するため、医療需要は増加傾向が続く。さらにその後も高齢者人口は増加し続けるため、総人口が減少するにもかかわらず、医療需要（患者数）のピークは2025年より数年遅れて到来することが見込まれる。

##### イ 圏域別の状況

すでに高齢化が著しい圏域と、今後本格的に高齢化が進展する圏域で状況が異なることに留意が必要である。

当院が属する北播磨圏域は高齢化の進展が中程度の圏域であり、高齢者人口は増加局面にある。うち、後期高齢者人口は同じく2030年にピークを迎えるが、増加率がやや高く、2015年の1.3～1.4倍程度にまで膨らんだ後、緩やかな減少局面に入る見込み。これと連動して医療需要も増加し、2030年をピークに減少局面に入るが、中播磨圏域では、団塊ジュニア世代の影響を受け、再び増加に転じる可能性がある。

### ③ 自施設の現状

#### <国立病院機構の理念>

私たち国立病院機構は  
国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために  
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに  
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し  
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

#### <兵庫あおの病院理念>

『正しい医療』科学的根拠に基づいた正しい医療を提供します。  
『高度な医療』高度で先進的な医療を日々研鑽して提供します。  
『やさしい医療』生命と尊厳をまもり、それぞれの患者さまにとって最もやさしい医療を提供します。

を掲げ、1. 患者さんやその家族に十分な説明を行い納得し、安心していただき結果として満足していただける医療を提供する。2. 地域の医療施設と連携を図り、地域住民に良質な医療を提供する。3. 重症心身障害児（者）の専門医療施設として政策医療ネットワークに参画し、高度で、やさしい医療を提供する。4. 専門的な教育研修、医療情報の発信に努める。の4項目を病院運営方針としている。

診療実績は届出入院基本料：障害者施設等入院基本料10対1、平均残院日数：101.4日（平成28年度実績）、病床稼働率：88.4%（平成28年度実績）であり、当院の特徴として重心医療の他、呼吸器疾患、循環器疾患並びに肺がん等の悪性腫瘍、骨・運動器疾患等で地域の医療需要に応えている。

重心医療については、短期入所はもとより在宅支援として重心の通所事業、入浴サービス及び障害児（者）地域療育在宅巡回訪問支援事業、さらに日中一時支援事業を実施しており、利用登録者を年々増加させながら包括的重心医療を推進している。

また、障害者、高齢者に対する摂食・嚥下機能訓練についての北播磨二次医療圏での教育、指導、情報発信機関の役割を担っている。

### ④ 自施設の課題

#### 従事者確保

- ・医師…充足率100%を維持していくための、安定的な確保は依然として困難な状況。
- ・看護師…医療の質を向上させ、安全で納得のいく医療サービスを提供するため、7対1配置を目指しており大幅な増員が必要。
- ・児童指導員…障害者に対する相談支援事業所の設置を目指しており、常勤相談支援担当者として1名の増員が必要
- ・その他…必要なりハビリが提供出来るよう作業療法士1名の増員が必要。

## 【2. 今後の方針】

### ① 地域において今後担うべき役割

重症心身障害児者に対する医療については、北播磨医療圏のみならず県内・県外から広く患者を受け入れており、ポストPICUへの対応を充実しつつ、慢性期機能を維持する。

重心医療について、短期入所は空床型であることから可能な限り利用者と調整のうえ受け入れることとする。通所事業、入浴サービスについては登録者数が増えていることから病院移転後も利用定員を増やししながら利用者を増加させているところであり、今後もニーズを把握しながら運営する。障害児（者）地域療育在宅巡回訪問支援事業及び日中一時支援事業についても、利用登録者を年々増加させながら包括的重心医療を推進する。

回復期病床については、病院移転により交通の便が良くなったことから、隣接する北播磨総合医療センターをはじめ近隣の医療機関から急性期を経過した患者を受け入れ、在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する。

## ② 今後持つべき病床機能

平成27年8月30日の病院移転に際し、病床機能について検討したところであることから当面は見直す予定なし。慢性期医療については、現在でも待機患者が多く患者の状態像や在宅療養の可能性等を勘案して適切に入院治療を提供していく。また、包括的に在宅支援を行っているため、今後も待機患者が減少することは考えにくい状況である。回復期病床については、隣接する北播磨総合医療センターとの連携が軌道に乗って来ている。定期的に北播磨地域連携会を開催し、円滑な紹介患者受入に努めることとし、現状の回復期病床50床、慢性期病床200床とする。

## ③ その他見直すべき点

慢性期患者に対して障害者リハビリテーションが十分に施されていないことから、来年度にむけ理学療法士を3名増員要求し、障害者リハビリテーション等の件数を増加させることにより医療の質を高めていくことを目指す。

## 【3. 具体的な計画】

### ① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

|       | 現在<br>(平成28年度病床機能報告) |   | 将来<br>(2025年度) |
|-------|----------------------|---|----------------|
| 高度急性期 |                      | → |                |
| 急性期   |                      |   |                |
| 回復期   | 50床                  |   | 50床            |
| 慢性期   | 200床                 |   | 200床           |
| (合計)  | 250床                 |   | 250床           |

<年次スケジュール>

|                 | 取組内容                           | 到達目標             | (参考)<br>関連施策等  |
|-----------------|--------------------------------|------------------|--|
| 2017年度          | 自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議 | 自施設の今後の病床の在り方を検討 | <p>集中的な検討を促進<br/>2年間程度で</p> <p>第7期<br/>介護保険<br/>事業計画</p> <p>第8期<br/>介護保険<br/>事業計画</p> <p>第7次医療計画</p> |
| 2018年度          | 自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議 | 自施設の今後の病床の在り方を検討 |  |
| 2019～<br>2020年度 | 自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議 | 自施設の今後の病床の在り方を検討 |  |
| 2021～<br>2023年度 | 自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議 | 自施設の今後の病床の在り方を検討 |  |

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

|       | 現在<br>(本プラン策定時点) |   | 将来<br>(2025年度) |
|-------|------------------|---|----------------|
| 維持    |                  | → |                |
| 新設    |                  | → |                |
| 廃止    |                  | → |                |
| 変更・統合 |                  | → |                |

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：91.2%
- ・ 手術室稼働率：25件（3,000点以上の手術件数）
- ・ 紹介率：20.9%
- ・ 逆紹介率：29.6%

経営に関する項目

- ・ 人件費率：67.9%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：  
0.06%（本部で負担している研究研修費は含まない）

その他：

【4. その他】